

道南太平洋海域スケトウダラニュース

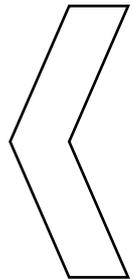
平成16年度 第1号

2004年9月30日

北海道立函館水産試験場室蘭支場

Tel: 0143-22-2327

Fax: 0143-22-7605

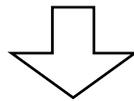


道南太平洋スケトウダラ計量魚探調査結果

函館水試調査船金星丸により行われたスケトウダラ計量魚探調査の結果をお知らせします。

- ・調査期間：平成16年9月2日～9月6日
- ・調査海域：道南太平洋の水深100～500m海域

水深200m以深の水温は5 以下とスケトウダラに好適
分布の中心は地球岬沖から白老沖に形成
渡島側にも分布の広がり
分布水深は300m前後
スケトウダラの平均反応量は低い水準



- ・漁場は例年同様漁期はじめに水深300m前後に形成
- ・魚の分布密度は胆振側で高いが、渡島側にも来遊
- ・魚の来遊は遅れている可能性

1. スケトウダラの分布する200m以深の水温は5 以下となっていました(図1)。
2. 魚探反応は、地球岬沖から白老沖(海区番号182～185)にかけて強く、また今年は魚群が渡島側にも広がっていました(図2)。
3. スケトウダラと考えられる魚群は水深200～400mの範囲に観察されました(図3)。
4. 胆振海域におけるトロール調査の結果、300m以浅の反応はスケトウダラ成魚と尾叉長20cm前後の幼魚(成魚中心)、以深ではスケトウダラ成魚とイトヒキダラが同程度漁獲されました。
5. 調査海域の魚探平均反応量は、過去3年間よりは高い値でしたが、漁期はじめから漁獲量の多かった平成10、11年と比較すると低い水準でした(図4)。
6. 現在のところ、水温環境はスケトウダラにとって好適なようです。
7. スケトウダラの分布水深は例年同様(やや浅め)なので、漁期はじめには水深300m前後に漁場が形成されるでしょう。
8. スケトウダラの反応量が比較的少なかったことから、魚の来遊が遅れていると考えられます。10～11月の漁獲量は2万トン程度と予想されます(図4)。
9. 漁期前の計量魚探調査の結果は、漁期はじめの状態を調べる調査です。今後10月末、11月末、1月中旬にも調査を実施する予定ですので、続報に注意して下さい。

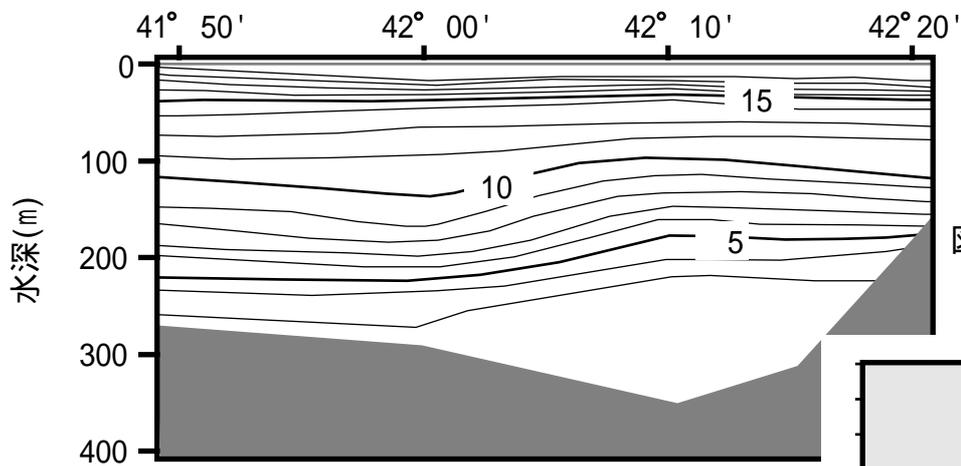


図1 . 141度20分の水温断面

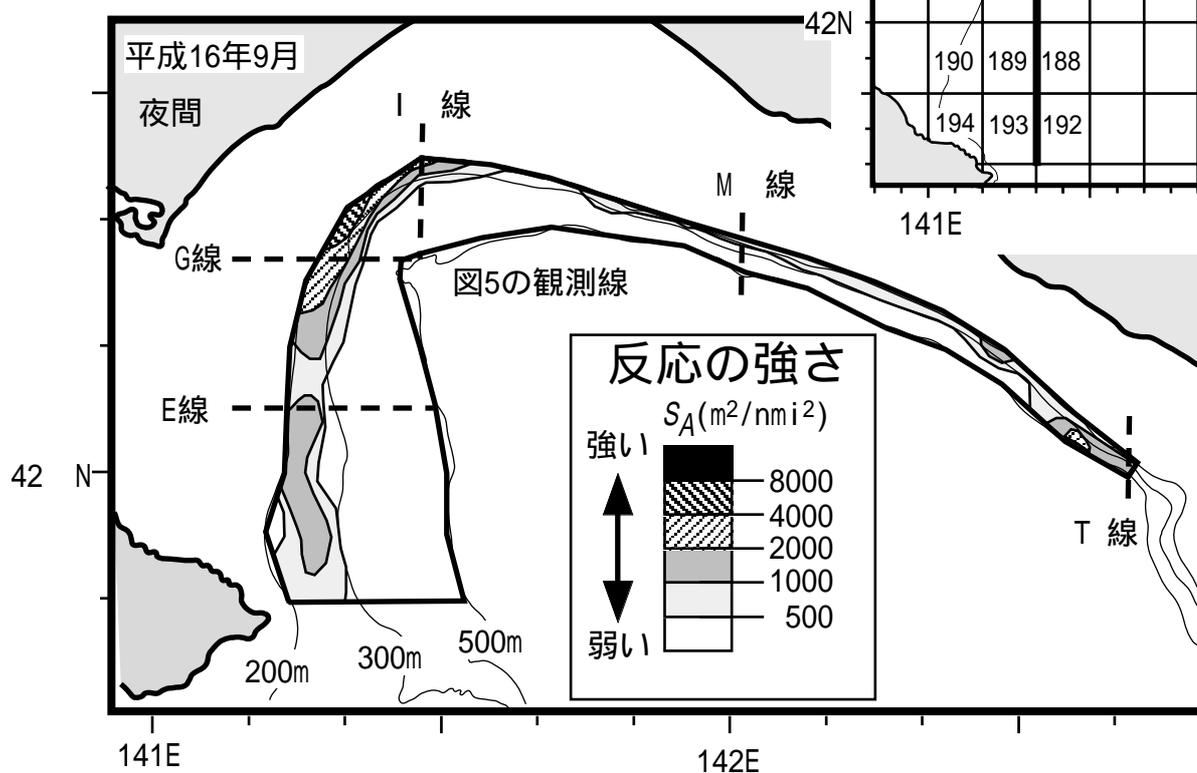
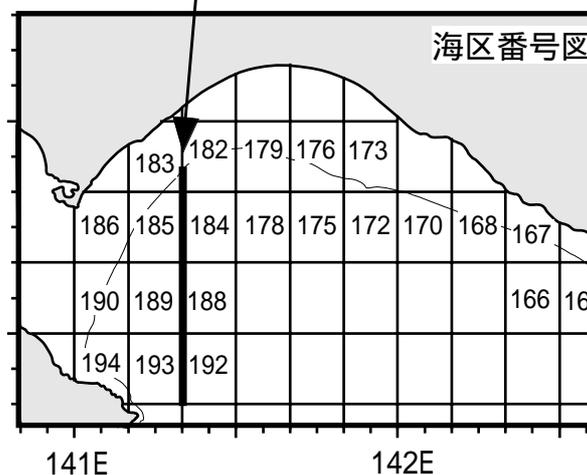


図2 . 調査海域における魚群の分布
黒ワケの中が調査範囲

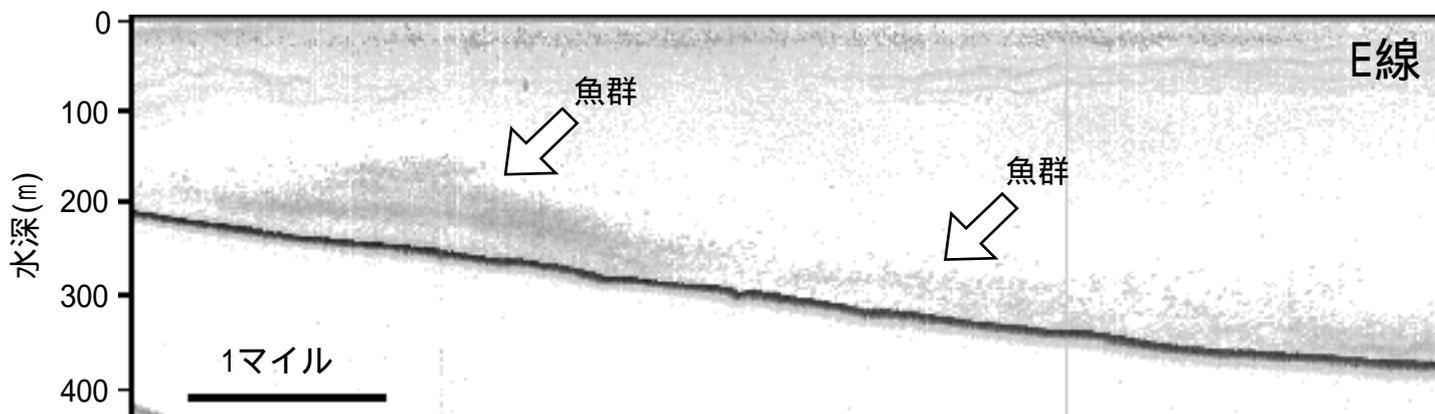


図3 . 魚群の分布 (計量魚探画像)

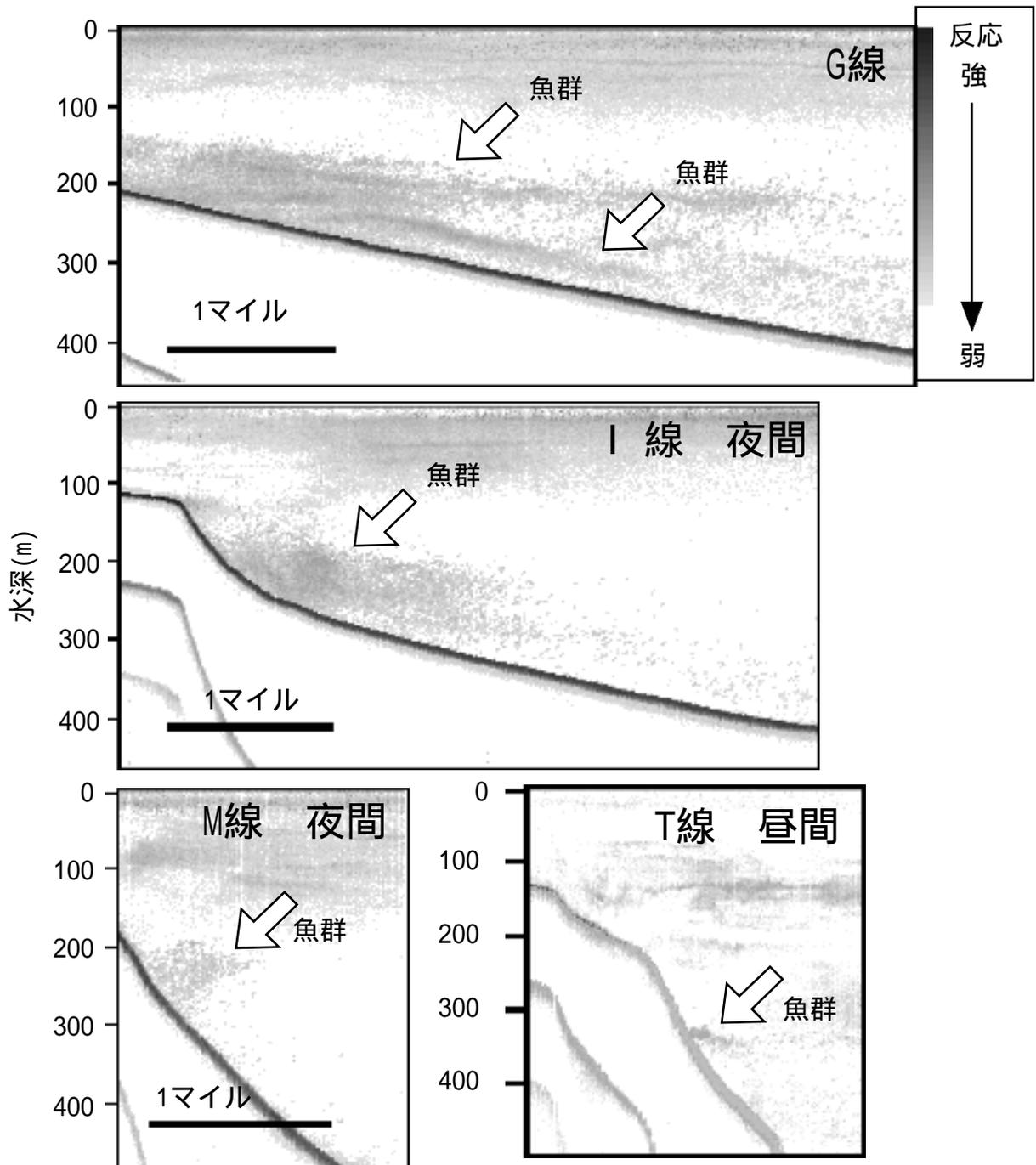


図3．魚群の分布（計量魚探画像）つづき

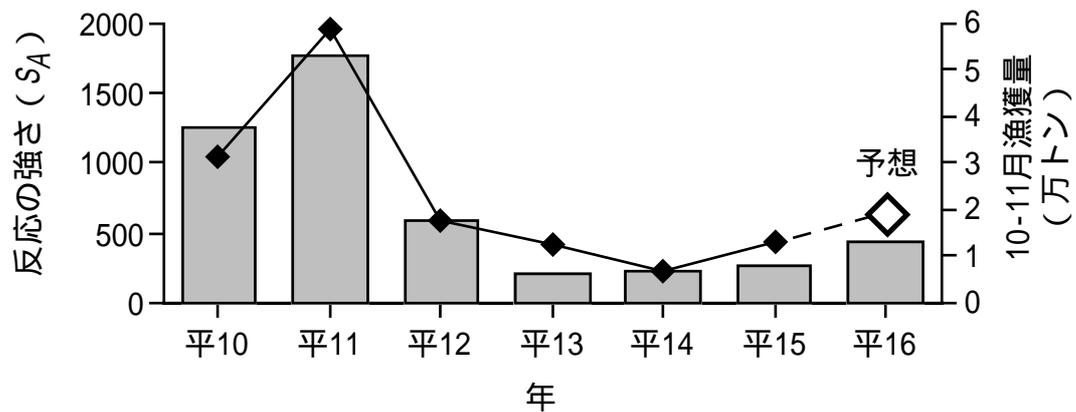


図4．魚探反応の強さ（棒グラフ）と10～11月の漁獲量（折れ線グラフ）の関係